

# 論文内容要約

## 論文題目

固定内斜視における筋移動術後の眼圧下降について

責任講座： 眼科学 講座  
氏 名： 林思音

### 【内容要旨】

背景：固定内斜視は、強度近視眼に後天的に発症し、高度の内転障害と上転障害を伴う。強度近視により眼軸長が延長した眼球が外直筋と上直筋の間に脱臼し位置異常をきたすことが原因であり、外直筋と上直筋の筋腹を逢着して脱臼した眼球を整復する筋移動術（横山法）が行なわれている。われわれは、固定内斜視における眼圧と、横山法術後の眼圧変化について検討し、術前の眼球の位置異常との関係について検討した。

対象と方法：横山法を行なった固定内斜視症例を対象とした。術前の眼圧異常の頻度を眼球運動制限の無い水平斜視症例と比較した。また、眼球の脱臼角と眼圧異常の関連を評価した。さらに、手術前後の眼圧変化を比較検討し、眼球の脱臼角と眼圧変化の関連を評価した。

結果：固定内斜視群における眼圧異常は水平斜視群に比べ有意に多く認めた。眼圧異常は眼球脱臼角が高度の場合に多かった。横山法術後、固定内斜視群における平均眼圧は有意に下降した。しかし、非術眼および水平斜視群では術前後で有意な眼圧変化を認めなかった。術前の眼球脱臼角が大きいほど術前後の眼圧下降差は大きくなった。

結論：固定内斜視では眼圧異常を多く認めた。固定内斜視において眼圧異常が認められた場合、横山法を施行することは眼位改善だけでなく眼圧改善にも有用である。